

平成24(2012)年度

## 第1回 吹田市立博物館協議会 議事録

日時 平成24年6月29日(金) 午後1時30分～4時

場所 吹田市立博物館 二階 講座室

出席 朝田・大元・由谷・一瀬・上谷・奥野・広瀬・村田・来間・辻本委員

挨拶

中牧館長 原田部長

新委員の紹介

西村 幸雄委員(上坂委員の後任) 大元 康江委員(東埜委員の後任)  
広瀬 浩二郎委員(中牧館長の後任) 村田 路人委員(藪田委員の後任)  
来間 史郎委員(公募) 辻本 武彦委員(公募)

議長・副議長の選出

議長は一瀬委員 副議長は朝田委員に

案件(1) 事業報告(平成23年度後半～)

- 藤井副館長より3・4ページの年度別・月別の観覧者集計表の説明を行う。
  - ・観覧者数というのは展示室に入られて展示を観覧された方の人数です。
  - ・講座等受講者数というのは、展示以外の博物館利用をされた方の人数です。
  - ・入館者総数というのは、観覧者数と講座等受講者数を足したものです。
  - ・入館者総数は、平成18年度から4年間、30,000人であったが、22年度は-6,000人、23年度は-4,000人となっています。
  - ・観覧者数がやや低迷しているが、平成23年度はわずか500人ほどですが増えて、減少傾向に歯止めがかかったといえます。主な原因は、「万博市民展」と「さわる展」の観覧者が増加したものです。
  - ・23年度の月別の観覧者数の増減について。
- 事務局より23年度後半～24年度前半の事業報告を行う。  
(展示趣旨、イベント趣旨)
  - ・「どんじ祭りー古式を伝える祭祀ー」は、吉志部神社の祭りが、昨年度吹田市の指定文化財になったのを記念して行った展示です。
  - ・特別企画の「むかしのくらしと学校」展は、毎年12月の中旬から3月の終わりまで開催しています。小学3年生社会科の単元「くらしのうつりかわり」に合わせた内容になっており、ボランティアさんに企画の段階から入っていただいて、展示の解説もお願いするという形で開催しています。
  - ・「小松左京写真展ー宇宙に翔く夢ー」は、昨年亡くなられた小松左京さんが吹田市立博物館に色々協力いただいておりましたので、小松さんの事績をたたえて写真で紹介する展示を行いました。
  - ・春季特別展「大庄屋 中西家名品展」は、江戸時代大庄屋を務めておりました岸部の中西家に伝わる美術品を初めて展示しています。
  - ・夏季展「子どもと環境」のプレイベントとして「金環日食を観察しよう」を行いました。
- (その他)
  - ・出前講座、連携事業、研修事業、調査研究、資料収集、特別利用、学会・研究会支援など
- 質疑応答  
(委員) 京都市の学校歴史博物館では、ちらしとして5・6年用と3・4年用に分けておいてあるが、吹田市立博物館では「むかしのくらしと学校展」で高学年中学年と分けて展示のことを考えているのかどうか。取材では、小松左京写真展が主になっているが、他の展示に対しては何も取材がなかったのか。  
(事務局) むかしのくらしと学校のちらしは、3年生の内容に即して作り、市内の小学生のいる各家庭に配付しています。  
(副館長) 取材というのはあくまで新聞記者が博物館へお越しになってこちらが対応したものを取材と

称してしまして、新聞に載った載らないというのは別の扱いにしております。ですから、載った事例は他にもあるということです。小松左京さんがなぜ多いかというと、「万博を考える会」という小松左京さんがお作りになって、万博が行われる際に原動力になった会の資料が、たまたま発見され、新聞社の方がその資料を見がてら取材に来られたというのが実態です。

(館長) いつ、どういう形で載ったのかというのが重要なのですが、たとえば共同通信というところから配信されると全国の地方紙に載りますが、これを把握するのは非常にむずかしい。でも影響力は、4大紙とか都市部に及ぼすのと同じくらいに、共同通信というのは全国的に広まるということがあります。そういうことを考えると、取材を受けたことも大切ですけど、どれだけ全国の人たちに知ってもらったかということのリストを次からはできればつけたいと思います。色々な形でコミュニケーションがなされているわけですから、どの程度の方法が際だっているのかをまとめた形でご報告できるようにすればと思います。少なくともリストについてはそういう方向でとりまとめていければというふうに思っておりますので、よろしくをお願いします。

(議長) ボランティアさん企画というのが「むかしのくらしと学校」という中にあるが、どういうことをボランティアさんが企画されているのか。

(事務局) 「むかしのくらしと学校」は、昔の生活の道具ということで衣食住それから学校をテーマにして資料をならべていますが、それを展示するにあたってボランティアさんの意見を吸い上げて、たとえば体験コーナーに井戸を作ったり、井戸の屋根を作ったりしています。また小学生が来たときに、どういうふうに体験させたらより効果的かと、どう工夫すればより展示の内容がよくなったり、あるいは展示解説する時の中身が充実したものになるかということボランティア会議の中で相談していただいています。

(議長) 関連して、シルバーアドバイザーとはどのようなシステムなのか。また、講座室の使用が一定の団体にかたよっていないか。

(事務局) シルバーアドバイザーというのは、老人大学を終了された方が集まってボランティア活動をしている団体です。その一つのグループががおもちゃづくりのグループで、「昔あそびとやさしいおもちゃ作り」のイベントをしていただいています。

(副館長) 博物館からお願いしたイベントをやっていただくにあたって、何度か練習が必要であるという場合に、講座室があいている時は、お使いいただいているということです。

(委員) 先ほどの小松左京写真展は急遽こういう企画になったという説明があったかと思うが、おそらく平成24年度後期から平成25年度前期の事業計画の中に急にそういうものが割り込んできた場合はすでに計画たてられたものというのはどのようになったのか。それから資料収集について特に購入資料は、どういう方針にもとづいて購入されているのか。それから、23年度の事業報告というのは大体イベント的なものの事業報告かと思うが、例えば博物館にある古文書の中に、未整理状態のものもあるかと想像するが、その未整理のものを少しずつ目録をとって整理していくようなことは、実際にやられているけど出てこないのか、あるいはこういうことは実際にはなかなかやっておられないということなのか。

(副館長) 小松左京写真展は急遽入りましたが、この期間に開催していましたが「むかしのくらしと学校」展の特別展示室は浸食せずにロビーを使って写真を中心に展示を行いました。計画を何か変更するという事はなく、単にそこにプラスして行える範囲で行ったということです。それから資料整理のお話がありました、これについては、11ページの一番下に、調査研究ということで資料調査と資料整理について書いています。それから、購入資料の考え方ですが、通常民俗資料は寄贈中心、考古資料は発掘すればということで、残るは美術資料歴史資料ということになってきますが、歴史資料につきましては寄贈いただけて増えるということもありますけれども、当然博物館にあるべき基本的な地誌などが無い場合もあります。そういったものはできる範囲で購入するという事です。それから当館の重点資料収集方針に、博覧会資料があげられています。購入につきましてはいつでも売っているものでもありませんので、その時々で重点項目があがっているものを購入しているというのがここ数年の実態です。

(委員) 古本屋に旧家の古文書が売りに出されているというのがよくあるが、吹田市域の村の古文書が出た場合は、購入の対象にはなっているのか。

(事務局) そういった吹田に関する古文書類が出ていけば、当然購入対象にはなります。是非とも購入したいと思っています。

(委員) 入館者数と観覧者数、講座等受講者数の関係はよくわかって、2つを足したものが入館者数になるというのはこれでいいと思うが、講座等受講者数で講座は受講したけども観覧せず、展示場に行かずに帰る人は結構多いのかと、講座を受講した場合に展示場を無料で見れるということにして

いるのかということをお聞きしたい。

(副館長) 講座を受けた後展示室へ入っていただく方は、あまりおられないように思います。といいますが、一つの展覧会に何度か講演会をする中で、お越しいただく方は同じ方が何度もということがあるんですが、その方が同じ展覧会を2度3度ご覧いただくということはなかなか難しいのかなと思います。ですから一度はご覧いただけるんですが、2度目3度目はご覧ならぬお帰りになるパターンが多いのではないかと思います。また、講座に来た人が無料で観覧できるのかということですが、これは基本的に有料になっています。

(委員) ご事情はよくわかりました。私の勤務している民博でも同じようなことだと思うが、学芸員の展示解説とかと絡めてできるだけ講座に来た人は、展示場の方にも行ってもらうような流れを作った方が、全体として活性化につながるのではないか。

#### 案件(2) 事業計画(平成24年度後期～25年度前期事業)

○事務局より 平成24年度後期～25年度前期の事業計画(案)の説明を行う

・特別展等展示中期計画(案)、開館20周年記念事業、講演会・講座、研修事業、学校教育との連携事業、資料収集、資料購入、資料保存、出版事業、その他

・平成24年度夏季展示企画書、平成24年度企画展示、開館20周年記念 平成24年度秋季特別展

○質疑応答

(委員) ④西村公朝資料・作品の収集というのがあるが、どういう内容なのか教えていただきたい。

(副館長) 西村公朝は、当館の初代の館長で、吹田市にお住まいになっていましたし、全国的に有名な仏教芸術家で、主に彫刻がご専門、絵画も若干お描きになっていますが、作品をおつくりになるとともに、国宝修理所で仏像の修理を手がけられ、修理に関しては第一人者だった方です。その方の作品が残ってしまっていて、遺族の方から作品を吹田市に寄贈または寄託という形で活用を図っていただけないかというお申し出がございまして、市の方でその保存活用についての検討委員会を立ち上げ検討しました。その結果、西村公朝さんの芸術世界と活動については、非常に貴重な文化遺産であるということで、行政の方で一括して保存活用を図るべきであり、吹田市で保管するにあたって最も適当な施設は博物館であり、しかもきちんと管理する学芸員を配置して保存して行って欲しい。また、保存だけではなくて一般公開、作品資料の特別利用にも供していくべき資料であるという結論をいただきました。博物館の収蔵庫の中に収めるにはスペースが足りないということで、収蔵庫の増設を検討しているところなのですが、財政的な見通しが立たず、再検討中という状況です。目録については、皆さんに見ていただけるような状態にはなっています。

(委員) ご遺族からの申し出ということだが、どういうものが何点ぐらいあるのか。

(副館長) 西村公朝の作品といいますのは全国にありまして、実態がすべてわかってはいませんが、純粹に西村家の個人所有になっているものが656点で、大半がいろいろなものに仏像の絵を描いておられる工芸品、また彫刻関係、絵画関係、あとご著書にちょっとした仏様のイラストを描いたものもあります。そういったものを全部含めまして656点になっているということです。

(委員) 今後きびしい財政の中で、一点ずつでも購入するというような見通しはどうか。

(副館長) 見通しについては、今確たるものはございません。ただ、誠心誠意対応していくということしか今は申し上げられないのが現状です。

(委員) 貴重な文化財ですので、大事に博物館でのご対応よろしくお願ひしたい。

(議長) 吹田操車場開業90周年というのもあるのですが、何かありますか。

(委員) 今新しい都市開発計画で、これまで鉄道の町といわれていました吹田が大きく変わった。発掘調査がずっと行われていたのですが、何点かすばらしい歴史的に貴重な発掘物というのはあったのか。

(課長) 現在、吹田操車場跡地で発掘調査が進められております。これは大阪府、あるいは府の財団などが中心になって発掘調査をしたところで、残念ながら吹田市域に関しては展示できるような遺物はなかったということです。

(委員) 入館料について確かに無料はうれしいが、展示の予算を見ると相当な金額を使っている。それとデータを見ると入館収入が少ない。そういう矛盾の中で博物館運営が大変だと思うが。

(課長) 博物館を運営する側、管理する側としては、ありがたいご意見だと思います。ただ、活性化するという意味で、講座に来ていただいて、その内容を展示で見えていただくというのが一番筋なのかなあとありますが、我々運営する側としてはできたら観覧料払ってみたいという方がありがたいと思っております。

(委員) 23年度後半から24年度前半というところの展示についても、展示趣旨を簡略化した形で入れられたら、いいんじゃないか。「むかしのくらしと学校」の中で、何か2つくらいに限定して、次は又ちがうものにしていくと、大きなテーマは同じやけども中身は若干変わっていくと何年かしてそれを全部見た人は、大体の状況がわかるという形の方がいいのではないか。

(事務局) 「むかしのくらしと学校」は、体験コーナーを10か所作って、1～3月に市内の小学3年生が団体見学に来ます。ですから毎年一定の入館者数があります。展示品をある年は衣類だけ、ある年は食だけというように限定するという事だろうと思うのですが、「くらしのうつりかわり」という単元と対応していますので、できたらくらし一般が見れる方が3年生にとってはいいのかなと思います。全体の流れを見れる方が子どもにとってはわかりやすいと思います。

(副館長) 「むかしのくらしと学校」につきましては、これは小学校3年生社会科単元「くらしのうつりかわり」と連携した展示ですので、毎年毎年3年生は入れ替わり新しい子どもたちが来ますので、同じで飽きるということはありません。基本はこの姿勢を保ちながら資料をどう若返らせていくのかということが、これからの課題なのかというように考えています。

(副議長) 博物館で職場体験をする中学校は増えているのかどうか。

(事務局) 希望する学校は年々増えてきておりまして、平成23年度は10校が体験活動をしています。

(委員) 新たなボランティアさんを毎年公募されているのか。また、そのボランティアさんをどのような形で研修し、どのような形で活動されているのかを教えてください。

(事務局) 博物館でボランティアさんとよんでいますのは、特別企画「むかしのくらしと学校」展にたずさわっていただいている方のことで、夏季の特別展などでは、実行委員会という形で募集してその展示が終われば解散するという形になっています。「むかしのくらしと学校」展は4月はじめに展示が終わり、ボランティアさんは、5月ごろから次の展示に向けて月1～2回の会議を重ねています。12月になると市報でボランティア募集をしますが、来ていただいた方は、1～3月の体験コーナーの解説をしていただくための講習をかねて集まっていたいて、その方が翌年も残っていただけるとそのまま引き続いて企画にたずさわっていただくということになります。

### 3) の課題討論

○副館長より 平成23年度事業自己点検・評価について説明

○質疑応答

(議長) 点検評価の今後の流れみたいなのがあれば。

(副館長) 今日は時間がないのでこれ以上は無理なのですが、お手数かもしれませんが、資料をご覧いただいて何かご意見がありましたら、事務局の方に送っていただいて、それをまとめて次回資料にさせていただくというようなことではいかがですか。

(議長) かなりの数があるので、持ち帰って書ける部分は書いていただいて、それと事務局の方にお送りいただくことでいかがか。

(副館長) 皆様がそれでよければこちらは結構です。お得意な分野を重点的にやっていただければ結構かと思えます。

(議長) 今の流れでお認めいただけるようであれば、その流れということでご質問とかご意見とかご提案ございましたら何か。

(委員) 自己点検の欄の書き方というのが、どちらかというところと分析的なところが少ないかと思う。要するに博物館としてはこういう事業をして、こういう結果になったと、それに対してどう思うかというところがつかめない。こういうことを注文として寄せればよかったのかも知れないが。

(副館長) きちんと分析すべきということで、今回はそういう形でやっていきたいと思っています。そして、これは一応外部評価として協議会での評価があることになっておりますので、その参考になるような形で資料を整えさせていただければと思います。

(議長) 要分析というようなご意見もあるということでよろしいですか。

(委員) すごく大変なことなので、全部そうしてくださいということではなくて、できる範囲で結構だが。

(議長) 他に何か。

(委員) 事業計画、これ委員評価の意見だが、個別には先ほどいわれたように、ちょっとしんどいなと思うが、全体通しての意見という形でもよろしいか。

(副館長) それでも結構でございます。できる範囲で感じたこと、思われたことをお書きいただいたら結構かと思えます。

(議長) 事業報告、事業計画等で有益な意見が多くいただけたので、事務局の方で整理していただきたい。私の議長の任務はこれで解かせていただきます。ありがとうございました。